

300角を超えるタイルを床に施工する場合に推奨する工法です。

施工条件

【セメントモルタル張り】

施工部位：屋内外床面

下地：モルタル下地（木ごて押さえ）

張付け剤：テラタイトグレー・プレミックス K3 (P.938 参照)

【有機系接着剤張り】

施工部位：居室・屋内床面

下地：モルタル下地（金ごて1回押さえ）・合板下地

張付け剤：MS フロアー 10・マルチ EP (P.937 参照)

※有機系接着剤張りはセメントモルタル張りとは比べ、下地精度が必要です。

施工手順

1. 下地の確認及び清掃

- 下地は十分な養生期間を経過し硬化していることを確認してください。
- 合板の留め付けに状況に問題がないこと、段差がないこと、剛性が高い下地であることを確認してください。
- 床下地面の埃・ゴミ等を除去します。

2. 墨出し

- 施工図に従い墨出しを行います。
- コンクリート下地のひび割れ誘発目地、モルタル下地の伸縮調整目地等の取合いについて確認してください。

3. 下地への吸水調整（セメントモルタル張りの場合のみ）

- 吸水調整材を塗布します。（希釈倍率は製造者の仕様に従ってください。）
- 吸水調整材が乾燥してからタイルを張付けます。

4. 準備

- タイル裏面の埃、アルミナ、傷防止緩衝材等を除去してください。

5. 張付け材の塗り付け

【セメントモルタル張りの場合】

- 所定量の水を混練容器に入れ、次に張付けモルタルを加え機械練ります。
- 一度に塗り付ける面積は、2m²以内としてください。
- 塗り付けは金ごてを使用し二度塗りしてください。一度目はこて圧を掛けてしごくように塗り付けてください。
- しごき塗り後、塗り厚に応じたクシ目ごてで、所定の塗り厚にクシ目を立ててください。
- タイル裏面全体に張付けモルタルをこて圧をかけて平らに塗り付けてください。

【有機系接着剤張りの場合】

- 1液型の接着剤は混練不要です。2液混合形接着剤（エポキシ樹脂系）の場合は、所定の比率でよく練り混ぜてください。
- ※マルチ EP 主剤：硬化剤＝1：1（混合不足は接着不良や汚染となります。）
- ※一度に混ぜる量は、可使時間内に使い切れる量としてください。一度混ぜた接着剤は保管できません。
- 下地に接着剤をクシ目ごてを用いてこて圧を掛けてしごくように塗り付けてください。
- 均一に塗布後、所定の塗り厚にクシ目を立ててください。
- タイル裏面全体に接着剤をこて圧をかけて平らに塗り付けてください。
- 一度に接着する面積は、張付け可能時間内に張り終える面積としてください。

6. タイル張り

- タイル裏面に張付け材を塗り付けたタイルは、作り置きせずただちに張り付けてください。
- 大形床タイルは、裏面に空隙ができやすいので、空気が入らないように慎重に張り合わせ、ゴムハンマーや振動工具で空隙ができないように、仕上がり高さまで押さえ込んでください。
- 所定の目地幅になるように目地直しを行います。
- ※タイル張り前にタイルを試験張りし、剥がし取り、モルタルの付着状態を確認してください。タイル全面に付着していない場合は、塗布量を増やしてください。

7. 目地部の清掃

- タイルを1枚張る毎（モルタルが硬化する前）に目地部分のモルタルをかき取って、目地深さを4mm以上確保し、できるだけ深さを一定にしてください。
- また、タイルを1枚張る毎にはみ出した接着剤を拭き取ってください。
- 施工した列毎にタイル面をきれいに清掃してください。

8. 養生

- 施工後、十分に養生してください。現場環境や状況により、養生時間が変化することがあります。
- ※磨きタイルの場合、プラダン等による密閉養生は、モルタル成分を含んだ結露水がタイル面の保護剤を傷める場合がありますので行わないでください。
- また、タイル面に付着した目地材がタイル面の保護剤を傷める場合がありますので、速やかに除去してください。

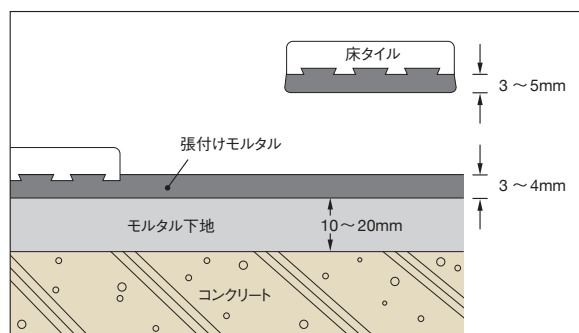
9. 目地詰め

- 張付けたタイルが動かないことを確認し、目地詰めを行います。
- 目地部に接着剤が付着している場合は、目地詰め前にカッターナイフ等で切り取ってください。
- 伸縮調整目地にシーリング材施工を行います。
- ※縦・横ともに4m以内毎に設けてください。また、ひび割れ誘発目地、モルタル下地の伸縮調整目地の位置と一致させてください。
- ※他材料との取合い部、開口部などの建具の取合い部分等は伸縮調整目地を設けてください。

10. 清掃

- 1日の作業終了毎に、タイル面およびその周囲を清掃してください。
- 水洗い（水拭き）を原則とします。
- シーリング材などが付着した箇所は、シーリング除去剤で除去してください。

〈改良圧着張り セメントモルタル張りの場合〉



ストライビング工法は、大形床タイルおよび石材の床張り用に開発された圧着張り施工方法です。

特長

①ハイスピード・ハイクオリティ (速く、美しく)

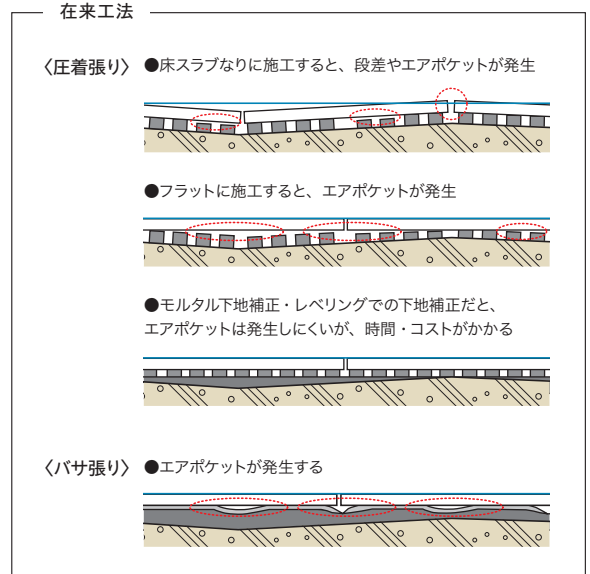
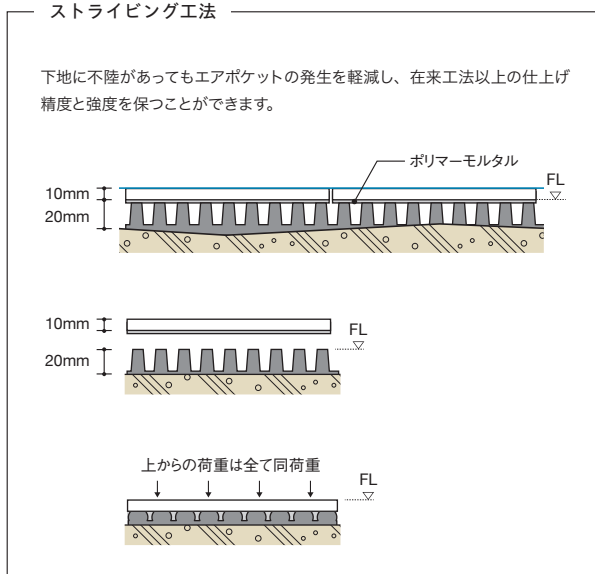
後戻りのない作業性で作業効率が高く工程管理がスムーズ。面精度も高く、打診検査などでは驚くほどの違いを発揮します。

②クリーンでスマートな施工

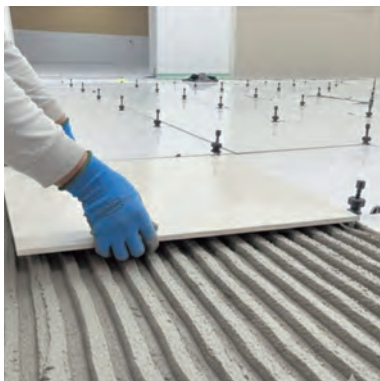
使用する部材は専用モルタルだけ。重機での搬入や粉塵の出る作業も少ないため作業がスマートで、クリーンな環境で施工が可能です。

③工期短縮によるローコスト化と不具合発生低減

在来工法に比べ手直し工事が少なくランニングコストも低減。専用モルタルと専用工具・治具の組合せにより下地の不陸問題を解消。大型タイルの施工において威力を発揮します。



専用副資材

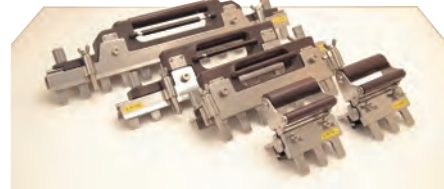


専用モルタル：ST-35H



下地形成治具：ストライバー

下地を均一に整えるためのガイド役となる道具です。これを使うことで、熟練の技術が必要だった「下地の平滑化」を高い精度でスピーディに行うことができます。



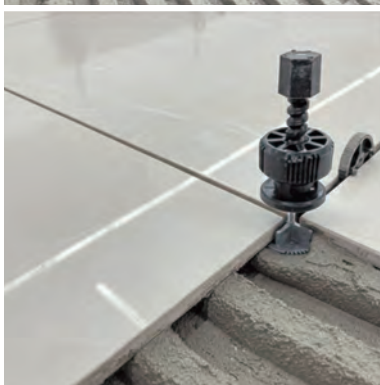
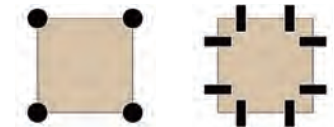
表面不具合解消工具：フィクサス

タイルの「浮き」や「段差(チリ)」を最小限に抑制。



一般的なクリップタイプのレベリング材に比べ必要数が少なく、施工効率に優れています。

600角タイル1枚に対する必要なパーツ数
フィクサス 必要数：4個 クリップタイプ 必要数：8個



ストライビング工法 お問い合わせ先

株式会社第一陶業 担当：山下 暁彦 TEL：075-606-2562